

レディ・チャタレー (2006)

LADY CHATTERLEY

メディア 映画

ジャンル ロマン스 文芸 エロティック

製作国 フランス/ベルギー/イギリス

色彩 Color

時間 135分

初公開日 2007/11/03

公開情報 ショウゲート

映倫 R-18

【キャッチコピー】

性は賜物、無限の慰め。

枯渴した生命の泉がよみがえる。

【解説】

その性愛表現を巡って激しい論争が巻き起こったことでも知られるD・H・ロレンスの『チャタレイ夫人の恋人』を、フランスのパスカル・フェラン監督が映画化した官能文芸ロマンス。今作では、現在一般に広く読まれている第3稿ではなく、コンスタンスと猟番の関係により焦点が当てられているという第2稿を基に、2人の愛と官能の目覚めを美しい映像で綴ってゆく。第32回セザール賞では最多の5部門を受賞。

1921年、イギリス中部の炭鉱地帯の村に建つラグビー邸。ここに暮らす結婚4年目のクリフォード・チャタレー卿とその夫人コンスタンス。クリフォードが新婚早々に第1次世界大戦に従軍し下半身不随となって戻ってきて以来、夫の身の回りの世話に追われるばかりの息詰まる毎日を送るコンスタンス。そんな中、姉の口添えで看護人が雇われ、少しゆとりの出来た彼女は、森へ散策に出て猟番のパーキンと出会う。コンスタンスがパーキンの肉体に引き寄せられるように猟番の小屋に通うようになると、ふたりは次第に互いの孤独を分かち合い、いつしか愛し合うようになっていく。

【クレジット】

監督	パスカル・フェラン	Pascale Ferran	
製作	ジル・サンドーズ	Gilles Sandoz	
原作	D・H・ロレンス	D.H. Lawrence	
脚本	パスカル・フェラン	Pascale Ferran	
	ロジェ・ボーボ	Roger Bohbot	
	ピエール・トリヴィディク	Pierre Trividic	
撮影	ジュリアン・イルシュ	Julien Hirsch	
美術	フランソワ＝ルノー・ラバルテ	Francois-Renaud Labarthe	
衣装デザイン	マリー＝クロード・アルトー	Marie-Claude Altot	
音楽	ベアトリス・ティリエ	Beatrice Thiriet	
出演	マリナ・ハンズ	Marina Hands	コンスタンス・チャタレー
	ジャン＝ルイ・クロック	Jean-Louis Coulloc'h	パーキン
	イポリット・ジラルド	Hippolyte Girardot	クリフォード・チャタレー
	エレーヌ・アレクサンドリディス	Helene Alexandridis	ボルトン夫人
	エレーヌ・フィリエール	Helene Fillieres	ヒルダ
	ベルナール・ヴェルレー	Bernard Verley	

サヴァ・ロロフ

Sava Lolov

ジャン＝バティスト・モンタギュ

Jean-Baptiste Montagut